

P-12

サガルマータ（エベレスト）登山がベースキャンプに及ぼす環境影響についてのシミュレーションの試み

下嶋 聖（東京農業大学） 島田 沢彦（東京農業大学）  
佐貫 安希子（東京農業大学） 入江 満美（東京農業大学）  
麻生 恵（東京農業大学）

エベレスト・ベースキャンプはエベレスト登山活動の利用拠点である。近年ヒマラヤ登山の大衆化を背景に登山者が集中するようになり、環境悪化が懸念されている。エベレストにおける環境問題の解決策として地域の環境保全と経済発展の両立を視点にした「持続可能な環境保管理支援システム」を構築することが必要である。具体的には、①エベレスト登山者及び周辺地域の観光客の利用実態のGISデータ化、②環境モニタリングを行い、登山活動や観光開発によって変化したヤクの利用実態と自然環境および社会環境への環境負荷の定量化、③適切な利用計画策定のため、GISを活用した環境破壊のメカニズムを把握するプログラムの作成である。一連のシステムを構築するための試みとして、本研究ではGISを活用しベースキャンプにおける環境破壊が生じるメカニズムを把握し、過去50年間に排出された有機物の量についてのシミュレーションを行った。

P-13

町田市きつねくぼ緑地における市民参加型管理運営活動と参加者の意識

薄井 美江（東京農業大学） 山内 良豊（きつねくぼ緑地愛護会）  
麻生 恵（東京農業大学）

町田市鶴川地区に位置する「きつねくぼ緑地」（1.1ha）は、町田市内で3番目の市民参加型緑地として1996年にオープンした。住宅地の中にありながら周囲には多摩丘陵の雑木林が残され、また中央部の広場では地域に密着した様々な活動が展開されている。特に、緑地の管理運営組織として「きつねくぼ緑地愛護会」が組織され、行政（町田市公園緑地課）との良好なパートナーシップの形成、地域の様々な市民グループの利用促進、地元学校の総合学習への協力、ボランティア研修生の受け入れ、多摩

丘陵固有の植物を増殖させる活動、地域住民向けのイベントの開催など、多彩な活動を愛護会が行ってきた。本報告では、こうした市民参加型緑地の運営のノウハウを紹介するとともに、愛護会会員を対象に実施した活動の継続意識に関する調査結果について報告する。

P-14

小笠原国立公園における適正な利用ルールの導入に向けた現状と課題

井上 麻美（東京農業大学） 下嶋 聖（東京農業大学）

一木 重夫（小笠原ホエールウォッチング協会） 麻生 恵（東京農業大学）

小笠原諸島は、国内のみならず世界的にみても希少かつ固有な自然環境を有していることで知られている。しかし現在、観光客によるオーバーユースなどが起因のとなり様々な面で自然環境に悪影響を及ぼしている。そのような背景から、平成14年、東京都は自然の保護と適正な利用を図る独自の要綱を策定し、自然環境保全促進地域として小笠原諸島の南島と母島石門一帯を指定した。またそれに伴い東京都と小笠原村は自然環境保全促進地域の適正な利用のルールを設定した。利用ルールの導入には、地域関係者の協力と、それに対する観光客の理解が必要である。本研究では、小笠原において地域関係者へのヒアリング調査と、観光客に対し適正な利用のルールについてアンケート調査を行い、自然地域における利用ルール導入に際する課題を明らかにし、解決策を探ることを目的としている。